

FSMS審査員資格のISO22000:2018移行手続きのご案内

ISO 22000 : 2005 の改定に伴い、2018 年 6 月に ISO 22000 : 2018、7 月には対訳版が発行されました。これを受けて当センターにご登録されているすべての FSMS 審査員の皆様は、定められた期限までに、ISO 22000:2018 対応資格への移行手続きをお願いいたします。

1. 移行要件

JRCA 登録 FSMS 審査員は、改定版の知識の証明として CPD（専門能力開発）を通じて改訂規格への対応結果をお示し頂く必要があります。具体的には、資格の移行期限までの間に以下の要件を満足することを示す書類を JRCA へご提出ください。

現行規格との差分を含む改訂規格対応の研修か、それと同等の教育・訓練のいずれかの「修了」を示す証拠、又は現行規格との差分を中心とした改訂規格の理解を示すレポートの提出を要件とする。

(参考)

- ・ JRCA 登録の「(新旧規格) 差分研修」の受講を推奨する。
- ・ IAF 加盟認定機関の認定を取得した認証機関が行う上記内容の研修の受講を可とする。
- ・ (新旧規格の) 差分の理解を示すレポートの提出を可とする。
* レポートを選択した場合は、指定された 7 項目について (それぞれ) 400 字以内にまとめて提出する。(別紙「FSMS 審査員の 2018 年版資格への移行のための CPD 記録作成方法について」参照)

2. 移行申請の期間

IAFからの移行期限延長の指針に基づき、2021年12月29日までに、移行手続きを完了してください。

なお、移行によって、現在の資格の“有効期限”は変更されません。

3. 移行申請の方法

FSMS審査員資格の移行は、2018年版規格の内容、2005年版との差分の理解等に関する「継続的専門能力開発(CPD)」を実施し、これを当センターに提示していただくことによって行います。

移行申請は、上記の移行期間内であれば、FSMS審査員資格の維持又は更新、新規／資格拡大登録、格上げの各申請と同時に実施、又は移行のみ単独で実施のいずれの方法も可能です。

この移行のための「継続的専門能力開発(CPD)」は、毎年の資格維持／更新に必要な「継続的専門能力開発(CPD)」の一部として含めることができます。

移行のための「継続的専門能力開発(CPD)」の提出方法には、以下の方法があります。「審査員補」「審査員」「主任審査員」とも共通です。

(1) 「JRCA登録 ISO 22000 差分研修」への参加

JRCA登録のISO 22000:2018の理解に関する研修コースを修了された場合は、「専門能力開発実績記録」(JRCA F5120-09)の1項に該当事項を記入し、修了証写しを添付して提出してください。この場合は、「2018年版改訂規格学習の記録(FSMS審査員)」(JRCA F5120-09C)の添付は不要です。

なお、修了証の提出のみで移行申請ができるのは、修了証に「JRCA登録 ISO 22000 差分研修」と表記があるものですのでご注意ください。

JRCA登録の差分研修を行っている研修機関及び差分研修コース名称は、以下のサイトを参照ください。

https://www.jrca-isa.or.jp/jrca/jrca_kensyu_a1/

(2) IAF加盟認定機関から認定を受けているMS認証機関が主催する研修等への参加

IAF加盟認定機関(JAB、UKAS等)の認定を受けているMS認証機関が実施した、所属する審査員を対象とする改訂規格に関する研修(複数回での実施も可、FDIS以降の規格に関する研修を含むこと)に参加し、改訂規格の内容や必要な審査方法等に関して十分に理解された場合は、「専門能力開発実績記録」(JRCA F5120-09)の2項に該当事項を記入し、修了証又は責任者証明、及び改定内容を全て網羅していることを証明する研修プログラム写し若しくは研修概要資料(別紙「FSMS審査員の2018年版資格への移行のためのCPD記録作成方法について」に定める6項目が明記されているもの)を添付して提出してください。

なお、修了証又は責任者証明に代えて、「2018年版改訂規格学習の記録(FSMS審査員)」(JRCA F5120-09C)の提出でも可です。

(3) 一般研修への参加

上記(1)、(2)以外の研修、セミナー、講演会等に参加された場合は、「専門能力開発実績記録」(JRCA F5120-09)の3項に該当事項を記入し、習得内容を記述した「2018年版改訂規格学習の記録(FSMS審査員)」(JRCA F5120-09C)によるレポート、及び研修プログラム写しを添付して提出してください。

(4) 自己学習等

規格や専門図書、グループ活動、インターネット利用等により自己学習された場合は、「専門能力開発実績記録」(JRCA F5120-09)の4項に該当事項を記入し、習得内容を記述した「2018年版改訂規格学習の記録(FSMS審査員)」(JRCA F5120-09C)によるレポートを添付して提出してください。

い。

JRCA F5120-09Cの作成にあたっては、別紙「FSMS審査員の2018年版資格への移行のためのCPD記録作成方法について」を参照してください。

4. 移行に必要な申請書類

①「マネジメントシステム審査員登録申請書」(JRCA F5120-01)

「申請の種類」の「移行」“ISO22000:2018移行”にチェックしてください。その他、該当する事項にチェックを入れ、必要事項を記入して下さい。

②「継続的専門能力開発(CPD)実績の記録」(JRCA F5120-09)、及び該当する場合は「2018年版改訂規格学習の記録 (FSMS審査員)」(JRCA F5120-09C)等

「継続的専門能力開発(CPD)実績の記録」(JRCA F5120-09)の該当欄に必要事項を記入し、指定された書類を添付してください。

③ 費用払込み記録写し

以下の5項に記載の費用払込み記録の写しを提出してください。

上記の各種申請様式は、以下のサイトから入手してください。

「JRCA」－「申請をされる方へ」－「FSMS審査員」－「2.1」申請書様式」

https://www.jrca-isa.or.jp/jrca/jrca_seido_b6/

5. 移行にかかる費用

①「新規」「資格拡大」「格上げ」「カテゴリ拡大」「更新」の各申請と同時に移行する場合

FSMS審査員資格の新規、資格拡大、格上げ、カテゴリ拡大、更新の各申請と同時に移行申請される場合は、移行のための追加費用はありません。移行が認められた場合は、2018年版の登録証明書及び登録カードを発行します。

②「維持」申請と同時に移行する場合

FSMS審査員資格の維持申請と同時に移行される場合も、移行のための追加費用はありません。移行が認められた場合は、2018年版への移行完了の通知を発行します。維持の場合は、通常、登録証明書及び登録カードは発行しませんので、保有されている登録証明書及び登録カードと、この移行完了の通知を合わせて保管してください。

なお、2018年版の登録証明書及び登録カードの作成をご希望される場合は、以下の費用を追加してください。

登録証明書：1,100円（税込み）、登録カード：1,100円（税込み）

③移行のみ単独で申請する場合

移行のみ単独で申請される場合は、以下の費用をお支払いください。2018年版の登録証明書及び登録カード作成は別料金です。

i 移行申請登録料：3,300円（税込み；各審査員区分で共通）

- ii 登録証明書：1,100円（税込み）、登録カード：1,100円（税込み）

6. ISO 22000:2005 対応の研修コース修了による新規/資格拡大登録申請について

FSMS 審査員補として新規/資格拡大登録申請する場合であって、当センター承認のフォーマル研修コース又は資格拡大研修コースの修了証が、ISO 22000:2005 対応である場合は、修了証の発行日から 5 年以内であれば、2005 年版対応の資格として申請いただくことができます。この場合は、上記 1～5 項に従って、2021 年 12 月 29 日までに、改訂規格対応の資格に移行してください。

また、移行申請期間以降（2021年12月30日以降）に、新規/資格拡大登録申請する場合であって、当センター承認のフォーマル研修コース又は資格拡大研修コースの修了証（発行日から5年以内）が、ISO 22000:2005対応である場合は、上記 3 項に従って、ISO 22000:2018を理解していることを示す「継続的専門能力開発(CPD)実績の記録」（JRCA F5120-09）、及び必要に応じて、研修修了証写し、研修プログラム、「2018年版改訂規格学習の記録（FSMS審査員）」（JRCA F5120-09C）によるレポートも同時に提出し、最初から改訂規格対応の資格として申請してください。

7. 期限までに移行ができなかった場合の対応について

2021 年 12 月 29 日までに、移行に必要な申請書類の提出及び費用の払い込みがなかった場合、保有されている FSMS 審査員資格は失効します。2005 年版対応資格のまま、資格維持を継続することはできませんのでご注意ください。

8. 申請料のお支払い及び申請書類の送付先

申請料等のお支払いは、以下の指定銀行口座への振込みにてお願いいたします。

(1) 申請料・年間登録料の振込み先

項目	銀行口座
銀行名	みずほ銀行(0001)
支店名	青山支店(211)
預金種別	普通預金
口座番号	2 6 1 9 5 5 3
口座名義	一般財団法人日本要員認証協会 ザイ)ニホンヨウインニンショウキョウカイ

注) 振込み手数料のご負担をお願いいたします。

(2) 申請書類の送付、お問合わせ先

〒108-0073 東京都港区三田三丁目13番12号 三田MTビル 11F
一般財団法人日本要員認証協会 マネジメントシステム審査員評価登録センター (JRCA)
TEL : 03-4231-8590 FAX : 03-4231-8685 e-mail : jrca@jrca-jsa.or.jp

以上

FSMS 審査員の 2018 年版資格への移行のための CPD 記録作成方法について

JRCAにご登録されているFSMS審査員（審査員補、審査員、主任審査員）の方は、ISO 22000:2018 改訂規格の発行から3年以内に、2018年版規格に基づく資格へ移行していただく必要があります。

この2018年版資格への移行は、改定版の知識の証明を行っていただく必要があります。“一般研修への参加”又は“自己学習”による「継続的専門能力開発(CPD)」で申請される場合は、今回の規格改訂の目的や主要な変更点等に関する、以下の7項目（①～⑦）について学習された内容をレポートとして提出してください。

【ISO 22000:2018 理解のポイント】

- ①他のMS規格との整合化、HLSの採用
- ②プロセスアプローチにおける2つのPDCAサイクル
- ③リスクに基づく考え方の採用
- ④リーダーシップとコミットメントを示す責任の強化
- ⑤資源に関する、外部提供された要素、外部提供者の要求事項の明確化
- ⑥ハザード管理計画におけるOPRPの要求事項の明確化
- ⑦改訂規格の活用、自身の対応

レポート提出による資格移行の際に必要な書類は、以下の二つです。

1) 「継続的専門能力開発(CPD)実績の記録」(JRCA F5120-09)

研修参加／自己学習等の分類に従って、研修会名／読書した書籍名、日時、実施時間を記述してください。研修参加の場合は、プログラム写しを添付してください。

なお、実施時間はレポート作成を含め、実際の学習に費やした時間をご記入下さい。

2) 移行専用の「2015年版改訂規格学習の記録 (FSMS 審査員)」(JRCA F5120-09C)

上記の7項目（①～⑦）すべてについて、それぞれ300字以内（計2,100字以内）で、改訂規格に関する学習内容を記述してください。

【参考】“ISO22000:2018 理解のポイント”に関わる要求事項等

【ISO22000:2018 理解のポイント】として取り上げた、①～⑦の7項目について、それぞれに関連すると思われる内容や要求事項の例を以下に記載します。レポート作成の参考としてください。(ただし、取上げた要求事項やその分類は、これに限定されません)。

①他のMS規格との整合化、HLSの採用

- ・ISO/TMB (ISO技術管理評議会) が開発した「ISO/IEC専門業務用指針 補足指針」の附属書SL (Annex SL) の規定に従う。
- ・プロセスアプローチの理解促進を図る。
- ・マネジメントシステム規格 (MS規格) の整合化のため、附属書SLに規定された、MS規格の上位構造 (HLS) 、共通テキスト、共通用語及び中核となる定義を採用。

②プロセスアプローチにおける2つのPDCAサイクル

- ・食品安全マネジメントシステム全体を対象としたPDCA
- ・食品安全の運用プロセスを対象としたPDCA

③リスクに基づく考え方の採用

- ・組織のリスクマネジメント
- ・運用レベルでのHACCPに基づくリスク

④リーダーシップとコミットメントを示す責任の強化

- ・組織の戦略的な方向性に沿った食品安全マネジメントシステム
- ・リーダーシップ及びコミットメントの実証

⑤資源に関する、外部提供された要素、外部提供者の要求事項の明確化

- ・外部提供者の評価、選択、モニタリングの基準
- ・外部から提供されたプロセス、製品、サービスの影響の管理強化

⑥ハザード管理計画におけるOPRPの要求事項の明確化

- ・PRP、OPRP、CCPの違いの明確化
- ・OPRP管理の強化

⑦改訂規格の活用、自身の対応

改訂規格活用に関する考え方、今後の取組み課題、審査における留意点等について、例えば以下のような観点から、ご自身の立場 (審査員/組織の管理者等) で記述して下さい。

- ・プロセスアプローチを理解し、PDCAサイクルによる改善ができるFSMSに取り組む必要性。
- ・組織の状況の理解、リスク及び機会の決定、目標設定、これらの運用、評価及び改善に関する取組み課題、これらの審査における留意点。

- 事業プロセスとFSMS要求事項との統合、トップマネジメントのリーダーシップの重要性、これらに関する審査手法。
- 文書化されていないプロセスや手順の有効性、FSMSのパフォーマンスに関する審査手法。

以上